

【新製品】

平成18年5月25日

お客様各位

東洋バルブ株式会社

代表取締役社長 小澤秀機

東京都中央区日本橋人形町3-8-1

オゾン・光触媒・紫外線を一体化した浴槽用除菌・浄化装置の発売について

このたび東洋バルブ(株)(社長:小澤秀機、本社:東京都中央区日本橋)は、業務用浴槽向けの除菌・浄化装置『ピュアキレイザー』(特許申請中)を開発し、7月1日より発売します。当装置は、オゾン・光触媒・紫外線を一体化し、各作用の相乗効果を応用したもので、塩素の数倍の除菌・浄化力を発揮します。

開発の背景

当社は、建築用バルブを得意とする老舗メーカーで87年の歴史があります。しかし、設備工法や価格競争で売上げが減少傾向にあり、現在注目を浴びている『環境』をキーワードにした新事業の立ち上げを目指していました。当社は、バルブを中心とした流体制御技術と業界屈指のブランド力に、新開発の技術を合わせることで環境装置分野でも大きなシェアを獲得できると考えています。

製品の特徴

オゾンは単独で使用する場合、高い濃度が必要となり、取り扱いに注意が必要です。光触媒は、オゾンより強力な酸化力がありますが処理量が多くありません。紫外線は、光源から距離が離れるにしたがい減退しますが、オゾンや光触媒をより活性化させます。今回、この3つの作用の長所短所を補完しあうことで効率的で安全な装置になりました。同方法は、促進酸化処理法(Advanced Oxidation Processes)と言われ、難分解性物質の重金属が含まれる工業用水などの処理に使われています。これを小型化、安価に開発することで20ℓまでの浴槽に販売できる様にしました。

浴槽で問題となるレジオネラ菌は、入浴者など外部から持ち込まれますが、濾過器や配管内のバイオフィーム内で増殖します。当装置は、レジオネラ菌の除菌にも極めて有効ですが、その菌床になる濾過器・配管内のバイオフィームを分解することにより、菌の住処をなくします。これにより、レジオネラ菌の発生自体をさせない効果があります。

レジオネラ菌対策で塩素消毒が強化されているが、濃度管理が難しく、温泉地では過剰投入で塩素臭による入浴者の不満が増えています。また、老人や幼児は肌が弱く、各施設担当者からは塩素薬品

を出来るだけ少なくしたいとの声があります。当装置を使用することで、塩素薬剤の使用量を安定的に減らすことが出来ます。社内の風呂設備を利用した実験(のべ約600名利用)では、当装置のみを使用して水交換なしの循環にて行いましたがレジオネラ菌の発生も無く過マンガン酸カリウム消費量も1.3mg/lと基準値を大幅に下回り十分な有機物分解と除菌が出来ていたことが判明しました。

販売目標

当面は、ホテル・旅館・スーパー銭湯やデイサービスなどの福祉施設をターゲットとし、将来は、各種品揃えを増やし、大型プール、工業排水、簡易水道、医療など広範囲の環境分野に進出したいと考えています。3年後に10億円の売り上げを目指します。

製品概要(形状)



以上

この件に関するお問い合わせ先

東洋バルヴ株式会社

新商品開発PJ

担当：田中・伊藤

電話：0266-82-0170

FAX：0266-82-0635